

2020年以降のロードマップ

新規則時代を勝ち抜く

インブルマーケティング 齊藤 晃一 代表

2020年以降、業界の市場規模はどうか推移していくのか。これから生き残り、残存者利益を享受するためにどうすればいいのか。新規則時代に必要となる店舗運営はどのような形態なのか。インブルマーケティングの齊藤晃一代表に予測・提言してもらった。

2020年の業界予測

いよいよ新規則時代に本格的に突入しました。昨年末には高射幸性機種種の代表格『バジリスク絆』『ハーデス』、今年5月には『沖ドキ』の撤去が待ち構えています。パチスロ粗利全体の約4割を構成し続けてきた看板機種です。これらと肩を並べる6号機はありません。この状況が続く限り2020年のパチスロ全体粗利は10%近く減少し、6号機導入コスト増によって営業利益は昨年対比で30%以上の減収を余儀なくされます。

パチスロの業績低下の一方で、旧規則機を有する4円パチンコはパチスロからの流入も想定され、業績は維持しやすいでしょう。旧規則機

施される原則屋内禁煙の影響を考慮しておらず、全面禁煙による「顕在ファンの減少」と「潜在ファンの開拓」の差によるユニークファン数の変動には注視する必要があります。

2020年の機械戦略

新規則時代へ向けて機械台入替も本格化してきます。検定機及び認定機で最終日まで使用することが想定される『北斗無双』『沖縄4』『慶次漆黒』『ジャグラー』『ハナハナ』以外の旧規則機は、順次新規則機へと置き換えられます。全体の機械入替回転率は上昇し、4円パチンコで設置台数の80%、20円パチスロで60%、低貸し市場で30%の新台幣入替需要があると想定されます。これには当然多額の費用(2020年の新台幣販売金額は1兆円規模)が伴い、粗利減少と合わせてホール経営を強烈に圧迫します。

ここに憂慮すべき点があります。新規則機へ移行するための費用は、マーケットリーダーの店舗が「通常の機械予算内」で対応可能なのに、チャレンジャー以下の店舗は「通常の機械費用を超過」しやすい点です。マーケットリーダー以外の店舗は2020年から数年間は特別な予算を計上するか、通常入替分の予算を縮小させて定番機の機械購入に充当せざるを得ないため、店舗ポジションにおける競争格差、利益格差が一段と拡大し、一強多弱体制がさらに進むものと想定しています。

経営状態が悪化することによって現存するホールの30%程度が経営破綻に陥り、7000店舗まで縮小するなどの推測もありますが、弊社

(CR機)と新規則機(P機)の業績格差もパチスロより小さい。また、設定付きパチンコのバリエーションと技術革新が進行し、『ウルトラセブン2 Light Version』『P牙狼コレクション』に代表されるように、「小さいが新しい市場」が登場している点もプラス材料です。2020年の4円パチンコ市場は、CR機を中心とした現在の市場+パチスロ流入層+P機によるイノベーションで堅調に推移するでしょう。

これらの時流予測(日本国人口推移、業界トレンド、ファン行動予測、参加率、投資金額、遊技頻度)を考慮し算出した業界の未来予測が図表2となります。

2020年の業界売上規模は18兆円を下回り、国民一人当たりのパチンコの年間売上金額(マーケットサイズ)は約14.4万円まで落ち込んでは撤退店舗は20%未満、8000店舗程度が存続可能と予測しています。これは新規則機への移行費用が当初の予測を下回る見込みのため、経営存続に必要な最低粗利額が引き下げられることに起因しています。参考までに新規則機へ移行するために必要な台数を主なカテゴリごとに算出した資料が図表3と4です。

パチンコについてはミドル・ライト・ミドル・甘デジで計49万台の需要を見込み、新規則機への



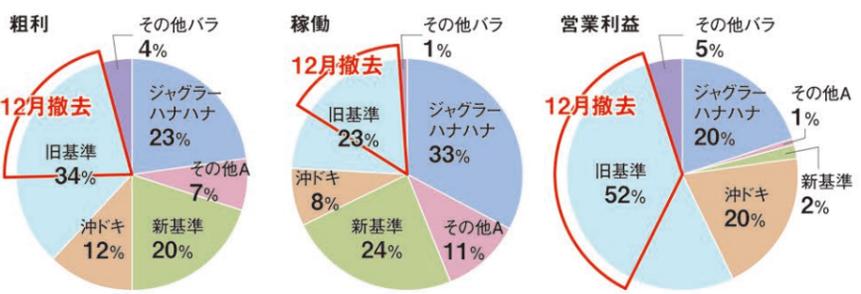
さいとう・こういち
大手ホール企業でデータ分析に携わった後、独立。現場〜情報システム〜営業企画〜マーケティング部門を歴任した技術とノウハウをもとに、出店や既存店強化など数値をもとにしたマーケティングで支援する。

み、業界全体の年間粗利規模は3兆円へ縮小すると予測されます。パチンコファン数については、市場の粗利規模に対して平均参加頻度を月に8回、平均滞在時間を4時間(日遊協2017ファンアンケート参照)として算出すると1040万人となり、日本人口に対しての参加率は8.4%となり、パチンコファン一人当たりの年間粗利消費額は約27.7万円となります。なお、ファン人数予測は2020年4月に実

移行が遅れている海シリーズの争奪戦が想定されます。また甘デジについては60%以上の移行率となつていますが、規制緩和後の低ベース甘デジの業績貢献が高く、CR機撤去と高ベースP機の入替で10万台の需要を見込んでいます。しかし甘デジが月間1万台ペースで市場供給さ

続きは月刊「アミューズメントジャパン」2月号をご覧ください

図表1 パチスロ旧基準機撤去のインパクト



リカバリ不可
撤去機種のPPMは【全のなる木】か【負け犬】で高い台粗利貢献をしている。代替機も同様なポジションでの運用は厳しく、粗利は半減以下、全体業績は10%ダウン。

リカバリ可
稼働については比較的貢献は少ない。他機種や後継機種で代替は可能。全体業績への影響は5%以内を見込む。

リカバリ不可
抜群の利益貢献をしていたコーナーが粗利の低下と機械費用の上昇により大幅な収益減となる。全体への影響度は30%の減収を想定する。

図表2 マーケットサイズ変化と中期予測

年月	日本国人口	税込み。金額単位:千円					
		年間売上計	年間粗利計	4円パチンコ	低貸しパチンコ	20円パチスロ	低貸しパチスロ
2018	124,349,004	19,619,089,609	3,183,927,193	1,391,317,244	455,862,435	1,223,580,264	113,167,250
2019	124,050,256	19,180,515,798	3,112,752,275	1,354,923,444	431,975,774	1,226,732,782	99,120,276
2020	123,752,227	17,806,739,283	2,889,805,926	1,331,366,790	405,862,114	1,070,872,699	81,704,323
2021	123,454,913	16,698,121,204	2,699,051,833	1,224,820,748	379,862,141	1,014,309,834	80,059,109
2022	123,158,313	15,991,683,931	2,595,245,669	1,160,026,772	358,601,053	998,129,075	78,488,769
2023	122,862,426	15,474,666,112	2,511,340,292	1,109,965,921	341,984,650	981,931,723	77,457,999

年月	粗利成長率				
	全体粗利	4円パチンコ	低貸しパチンコ	20円パチスロ	低貸しパチスロ
2018	-5%	-3%	-4%	-6%	-13%
2019	-2%	-3%	-5%	0%	-12%
2020	-7%	-2%	-6%	-13%	-18%
2021	-7%	-8%	-6%	-5%	-2%
2022	-4%	-5%	-6%	-2%	-2%
2023	-3%	-4%	-5%	-2%	-1%